

川を守るために

洗足学園中学校

二年 渡邊 真央

いろいろな種類の美しい花が近くにたくさん咲いている立会川。そんな立会川の近くに私は住んでいます。立会川は、見た目が緑っぽい色をしていて、ただ正直、あまりきれいというイメージは私にはありませんでした。

しかし、立会川は平成十年の水質検査でBODが9.4ミリグラムパーリットルだったのが現在は1.7ミリグラムパーリットルにまで改善されました。BODとは汚れの度合いのことで、通常、鮎がすすめるきれいな河川の水質は5ミリグラムパーリットルなので、立会川はとてもきれいな川になったことを知りました。そして、私が思っていた以上に立会川がきれいになるまでにたくさん地元の人たちの努力があったことを知りました。

まず、私は小学五年生のときに参加した、立会川美化

運動のことを思い出しました。この運動は、「川の日」である七月七日に合わせて平成九年に始まり、「魚のすめるきれいな立会川にしたい」という地域の強い願いから始まったそうで、立会川やその周辺地域の環境を美化し、川をきれいにすることへの市民意識を上げるようにしているものです。私も美化運動で、「ごみのポイ捨てはやめましょう。」「川を大切にしましょう。」などと言ってスピーカーを片手に歩き回りました。この美化運動によって、「立会川は、緑に囲まれていて、きれいで魚がたくさんすんでいる川」と言えるようになったら良いなと思いました。

そこで、川の汚れの主な原因について調べてみました。まず、川の汚れの原因は、工場などからの産業排水や畜産などからの排水のほかに、台所や風呂、トイレなど日常生活の営みから出される生活排水があります。水の汚れは、かつては産業排水が主な原因でしたが、排水処理対策の進んだ最近では、生活排水が汚れの大きな原因となっていることが分かりました。家の台所から出た水は、単独処理浄化槽、公共下水道や合併処理浄化槽などを通じて川などへ流れています。このうち単独処理浄化槽で

は、生活排水がそのまま川へ流されてしまい、生活排水が川の汚れの原因となります。また、公共下水道や合併処理浄化槽では生活排水を処理してから川へ流されるので、生活排水をきれいにするために大量の水が必要となります。つまり、どれを通して川へ流されたとしても、それぞれの家庭で生活排水をきれいにしてから流さなければ、大量の水が必要になってしまうということなのです。

さらに、魚は、川がどのくらいきれいになったらおすすめようになるのかを調べました。例えば、味噌汁を流した場合、魚がすめるようにするためには、その量の約七〇〇〇倍の水で薄めなければならなくて、台所用洗剤を流してしまった場合は、約四二〇〇〇倍のものすごい量の水が必要です。それを知ったとき、私は今までどれだけの水を無駄に使ってしまったのだろうと衝撃を受けました。だから、これからは生活排水をできるだけきれいにしてから流すために、料理は作りすぎに注意する、調理くずや食べ物の残りを水と一緒に流さないために水切りネットや三角コーナーを設置することなどを取り組んでいこうと思いました。そして、これらのちよつとした

事をきちんと行うだけでも、大きな効果が期待できると考えました。

このように私は、立会川は家の近くにある川なのにも関わらず、ほとんど知らなかったことに気づかされました。地域の人たちの努力や、川の汚れの原因についてもよく知らなかったのです。なので、水を無駄に使っていないためには、たくさんの方が現状を知り、実行することで、川の水質の改善につながっていくのだな、と考えました。また、普段何気なく使っている『水』に感謝することも大事だと思います。